

中野製薬製造草津工場

Building Name

No. 12-086-2025作成

新築
工場

発注者	中野製薬製造株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

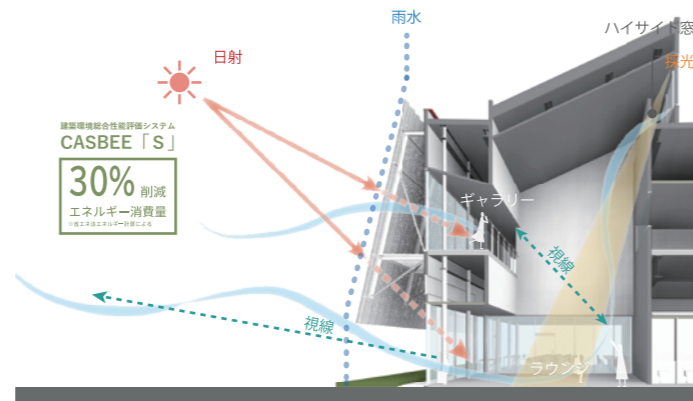
琵琶湖の漣を葦簀に重ね、人の心を揺さぶる「美」の情景をつくる



地域に親しまれ、環境と呼応するエコファサード「YOSHIZU SKIN」

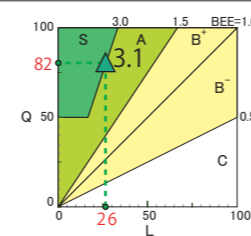
「美」を追い求め、「水」と共に生きる
環境と人に優しく、工場らしくない工場にしたい。琵琶湖の近くで、創業以来、「美」を追い求めてきた頭髪化粧品メーカーの工場移転計画である。「水」に育まれた大地の風景に調和する佇まいを探り、強い日差しを遮りつつ、心地良い風を通す「葦簀」をデザインに取り込んだ。環境と呼応するエコファサード「YOSHIZU SKIN」が、地域に親しまれ、日々の暮らしに輝きと歓びを与え、人々の心を揺さぶる情景を生み出す。環境負荷を低減する省エネ設備の導入、信楽焼タイルなどの地産地消の素材の活用、既存樹木の保全により、頭髪化粧品業界初※のCASBEE「S」ランクの認証を取得した。

※中野製薬調べ（2024年5月31日現在）



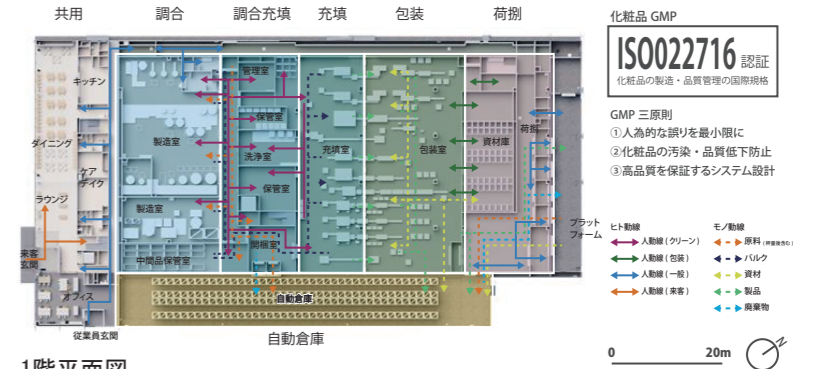
共用エリアのコンセプト断面

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI値	Sランク
竣工年	BEIm値	BEE=3.1
敷地面積	LCCO ₂ 削減	2021年度版 第三者認証
延床面積		
構造		
階数		



BEAUTY × SMART

既存工場で分散していた機能を集約・統合し、従業員の負担を低減する自動化設備を導入することで、高効率な生産空間を構築。ヒトとモノの動線を明快に分離し、製造・充填・包装・出荷といった一連の生産プロセスをワンフロアで完結させた、シンプルで無駄のないプランニングを実現した。調合・充填室はクリーン環境とし、製品の品質および安全性に関する高い基準を満たすことにより、ISO22716（化粧品GMP）認証を取得。また、製造実行システム（MES）の導入により、多品種・変量生産のノウハウをITシステムで管理し、生産プロセスの最適化を図った。



1階平面図



シャンプーの泡のような光の粒子に包まれる回廊ギャラリー

BEAUTY × SUSTAINABLE

自然環境と共生する環境配慮型の施設のアイコンとなる「YOSHIZU SKIN」は、滋賀県の琵琶湖周辺で長く愛用されてきた葦簀（よしず）をモチーフとした「美」を象徴する環境装置である。強い日射しを遮断しながら、心地よく風を通す機能を持つ。琵琶湖の細波や煌めきを原風景とした柔らかな形態の多孔質なスキンは、葦簀を立て掛けるように斜めに置くことで、内外の中間領域に木漏れ日空間を創出し、日射による熱負荷を抑制する。また、処理した水を脱水機の洗浄水に再利用することで、水の使用量を抑えるエコシステムを独自で設計。変種変量生産を支える排水処理技術により、水質汚濁の防止、排水量の削減、処理に要するエネルギーの削減に取り組んでいる。

BEAUTY × WELLNESS

来訪者を出迎える展示機能を持つウエルカムラウンジと、従業員の憩いの空間であるリフレッシュダイニング（食堂）を一体的に活用し、従業員が誇りに感じられる人にやさしい環境づくりを目指した。目の前に広がる田園風景を望む木漏れ日空間のカウンター席や、手軽に運べるベンチなどを設け、その日の気分にあわせて居場所を選べる構成とした。また、リアルなコミュニケーションにより生産効率を高める働き方「OCW（オープン・コミュニケーション・ワーキング）」の導入により、世代を超えた交流を促す開放的なオフィスを実現。ここで働く従業員の笑顔そのものが「美」を物語っている。



木漏れ日に包まれながら食事を楽しむリフレッシュダイニング



既存工場の煉瓦タイル／信楽焼きタイル／近江ちぢみ麻カーテン

設計担当者

建築：宮崎伊佐央、勝又 洋、桂 悠花、阮光 峻、郭 皓陽
構造：山崎英一、板矢崇志
設備：奥津健治、三村渉、山田真梨子、末吉 剛、田島恒瑛、印東優作

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（地元で長く愛用されてきた葦簀をモチーフにした環境装置、地場産材の活用）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（断熱性能の高い外壁材、Low-Eペアガラスの採用）
- LR1. 2. 自然エネルギーの利用（ハイサイドライト）
- LR2. 1. 水資源保護（排水質汚濁の防止、排水量の削減、処理に要するエネルギーの削減）
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮（LCCO₂削減）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（排水処理設備の導入、既存樹木の保護）